

令和2年度 第2回加古川市総合教育会議 議事要旨

- 1 開催日 令和3年2月16日(火)
- 2 開催場所 加古川市役所新館10階 大会議室
- 3 出席者 加古川市長 岡田 康裕
教育長 小南 克己
教育委員 廣岡 徹
教育委員 坂元 裕美子
教育委員 土屋 光世

4 傍聴人 1人

5 議事の要旨

○ 開会 午前10時00分

○ 会議公開の可否決定のこと
全ての議事を公開することに決定

○ 議事録署名委員指名のこと
小南教育長を指名

(傍聴人入室)

○岡田市長あいさつ

○ 報告事項

(1) 第3期「かがわ教育ビジョン(加古川市教育振興基本計画)」について

<小南教育長から説明>

(岡田市長)

- ・昨年7月の総合教育会議において協議させていただいた内容も盛り込んでいただき、第3期かがわ教育ビジョン(以下、「ビジョン」という。)を策定いただいている旨、お聞かせいただいた。
- ・第2期「かがわ教育ビジョン」からの改善点として、重点目標ごとに評価指標を設定されており、非常に分かりやすいと感じた。例えば、「重点項目①地域とともにある学校づくり」において、地域との連携やつながりといった意味では、「学校園支援ボランティアの活動延べ人数」や「放課後子ども教室参加児童数」について、地域の方に参加していただいているということを分かりやすく示すものとなるので、目標の達成に向けて進めていただきたい。

- ・地域との連携の観点においては、現在、両荘地区での義務教育学校の設置に向けて建設等を進めていこうとしているが、地域の方から様々なご意見をいただいていると聞いている。その状況についてお聞きしたい。

(小南教育長)

- ・基本構想の策定に当たっては、学校運営協議会や町内会、PTA等の各種団体等との意見交換会（延べ109人参加）や意見募集（24人提出）を行い、できるだけ多くの意見聴取を行った。また、基本構想策定後の昨年11月、両荘中学校において「教育長と語る会」を開催し、63人の地域の方に参加していただいた。その際にも、様々なご意見をいただいた。
- ・意見の内容としては、独自教科の設定など小中一貫教育の導入に伴う特色ある教育課程や、公民館との複合化に伴う教育活動の連携等について前向きなご意見を多くいただいた。一方、公民館の複合化に関しては、不審者対策といった子どもの安全面への対応が必要とのご意見などもいただいたところである。
- ・義務教育学校について、地域の多くの方にご期待いただいていると感じており、今後もご意見を伺いながら進めていきたいと考えている。

(岡田市長)

- ・両荘地区は、以前から地域の方との関わりが深い地域であるため、他の地域のモデルになるような学校となるよう取り組んでほしい。
- ・公民館との複合化を図るため、不審者対策に対するご意見をいただいたものと思うが、できる限り配慮しながら進めていただきたい。
- ・「英語科」や「ふるさと科」などの独自教科の設定もご検討いただいている。既に、英語や道徳の教科化などによりカリキュラムがタイトになっていると思われるが、9年というサイクルの中でうまく位置付けていただきたい。
- ・そのほか、通学バスのルートをどうするのか等、引き続き、地域との調整課題もあると思われるが、丁寧に議論を重ねていただきたい。
- ・次に、協同的探究学習については、本市の特徴的な取組として推進していただいている。新型コロナウイルス感染症の関係で、予定変更を余儀なくされた場面もあったかと思う。
- ・中部中学校での研究発表会には私も参加させていただいたが、参加者数を絞らなければならない状況にあり、取組を大々的に発表していきたいという意味では、残念でもあったように思う。
- ・協同的探究学習の今後の広げ方や、保護者の皆さんをはじめ、対外的な発信方法などについてお考えをお聞きしたい。

(小南教育長)

- ・昨年11月の中部中学校での研究発表会は、参加人数を絞っての実施となった。
- ・研究発表会には、各学校の学力向上推進担当者が参加しており、その後、当該教員が各学校で伝達研修などを行っている。
- ・協同的探究学習による授業改善によって、生徒が主体的に授業に取り組む姿勢などを直に観察していただくことが、各担当教員への働きかけになったと感じている。
- ・コロナ禍の中、制限を受けながらの授業ではあったが、各学校の状況に合わせた取組を進めることができたと考えている。

- ・授業改善の大きな効果として2点が挙げられる。
- ・1点目は、アクティブ・ラーニングによる主体的な学びの重要性を再認識するとともに、主体性を育むためには協同的探究学習が効果的であり、積極的に進めようとする教員が増えたことである。
- ・2点目は、協同的探究学習による授業において、導入問題として誰もが考えて答えを出せるような問題を出すことで、これまで授業への参加に消極的であった子どもが発言できるようになった。その子どもにとっては、発言を通じて自己肯定感や自己有用感を高められたり、またクラスメイトにとっても新たな発見があったりしたなどの報告があった。
- ・すべての学校において、全教科を通じて協同的探究学習を実践できる状況にはまだないため、来年度は引き続き、推進校等を指定し、拠点校として重点的に進めながら、各学校においても実践していきたい。
- ・成果の発表については、新型コロナウイルス感染症の状況もあるが、オンライン等を通じて発表できるような環境になっているため、今後広報活動にも取り組んでいきたいと考えている。

(岡田市長)

- ・いじめ問題も様々に報道されている状況であるが、本市で同じような事案を二度と起こさないためにも、いじめ事案に対する情報共有や対応方法などの組織的な仕組みはもちろんのこと、協同的探究学習などを通じて子ども同士のつながりを深め、互いの意見を尊重し合えるような関係性を築き上げていくことも大切だと考える。
- ・協同的探究学習の取組を対外的にPRする際には、市長部局としても連携させていただきたい。
- ・次に、GIGAスクール構想の実現の部分であるが、地域BWAを活用することで、自宅へ端末を持ち帰って使用することができるという点が本市の特徴になってくる。
- ・ICT機器や学習コンテンツはこれからも民間事業者の競争の中で進化していくこととなるが、教員の皆さんにおかれては、機器等をうまく活用させていただきたいと考えている。
- ・本市の特徴を生かしたICT教育の推進方法や、今後の授業展開などについての教育委員会のお考えをお聞きしたい。

(小南教育長)

- ・今年度中に整備が完了する端末や学習支援コンテンツの概要等について、教育研究所の職員から説明させていただく。

<教育研究所職員から説明及び学習支援コンテンツのデモンストレーションを実施>

- ・市長、教育長及び教育委員が児童役として、それぞれ学習支援コンテンツを導入した端末を操作
- ・説明者（教員役）から端末上で算数の問題を一斉に配付
- ・算数の問題に取り組んでいる間、教員役は、端末にて各児童役の学習状況をリアルタイムで確認
- ・児童役は、端末上で回答を教員役に提出
- ・教員役は全員の回答を会場前面のスクリーンに集約して、多様な意見や考えを全体で確認
- ・このような授業を行うためには、一旦、教員が課題を回収して集計したり、黒板や模造紙等に記入して提示したりする必要があったが、端末及び学習支援コンテンツを活用することで、

子どもが瞬時にクラス全体の多様な意見や考えに触れることができ、学びを深めるために必要な「協同探究」の時間の確保にもつながることを確認

- ・ポジショニング機能を活用することで、児童の回答の傾向(どのような解き方が多いかなど)や、問題を解いている最中の思考の移り変わりを可視化することが可能
- ・次に、学習ドリル機能を活用して、漢字問題を回答
- ・漢字問題では、書き順や「とめ・はね・はらい」などの確認が自動で行われるとともに、児童生徒の習熟度や興味関心に応じて自主的に解き進めることが可能
- ・端末はLTE方式で常時ネットワーク環境に接続されており、家庭に持ち帰って端末を活用した学習が可能であることを確認

(岡田市長)

- ・百聞は一見に如かずということわざもあるように、実際に端末を活用してみて、今後の授業の流れなどもよく分かった。また、LTE方式による通信であるため、端末の持ち帰りによる自宅学習やオンラインでの授業にも対応可能であることも確認できた。
- ・端末の活用などによる授業の変化については、保護者の皆さんの関心も高いため、周知方法なども併せてご検討いただけたらと思う。
- ・次に、スポーツに関することとして、市の機構改革を進める中で、新年度からは市長部局で学校体育以外のスポーツを所管することとしている。
- ・ウォーキングやランニングのほか、マラソンも含めて市民向けのイベントなどもあり、高齢者の健康増進も市の大きな課題となっている。一方で、学校体育や部活動においても、地域の方のご協力もいただいていることから、市長部局としても引き続き、連携して効果を最大限発揮していきたいと考えている。今後ともよろしくお願ひしたい。

○ 協議・調整事項

(1) 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について

(岡田市長)

- ・現在、第2期「かこがわ教育ビジョン」を本市の「大綱」と位置付けている。
- ・このたび、ビジョンが改められたので、大綱についても見直す必要があると考えている。
- ・ビジョンの策定においては、昨年7月の総合教育会議における議論の内容も盛り込んでいただいております。先ほど意見交換もさせていただいたところである。
- ・また、子どもたちの育成に当たっての目指すべき具体的な人間像として「努力する人」「心あたたかい人」「行動する人」を掲げられており、共感している。
- ・私自身、努力すること、そして何より感謝の気持ちがあることが大事だと思っている。感謝の気持ちがあることで、人に優しくなることができたり、自信がつき、率先して行動していけるようになったりすると考えている。表現の違いはあれども、目指しているところは同じだと考えている。
- ・ぜひ、3つの人間像を目指していただきながら、「かこがわスマート・リンク」といった加古川オリジナルの学びについても進めていただきたい。
- ・については、今後、ビジョンをもとに大綱を定めていきたいと考えている。

(廣岡委員)

- ・ 昨年も申しあげたが、第2期「かこがわ教育ビジョン」の計画期間は激動の期間でもあった。
- ・ コロナ禍や、猛暑などによる社会的な要請により、急遽、感染防止対策などを講じるほか空調設備の設置を前倒しするなど、対応が迫られる中にもかかわらず、従来から計画的に進めてきたものとを同時並行で進めることができるよう、うまく予算を調整いただき、教育委員としてお礼申しあげたい。
- ・ 来年度からの第3期の期間においては、ICT環境、空調設備、中学校給食など第2期において整備したものの、活用やその効果が問われてくる期間となるため、教育委員会、学校がしっかりと頑張っていかなければならないと感じている。
- ・ また、ビジョンにおける巻末の用語解説のとおり、このたびのビジョンでは、これまで耳にしたことの無いような用語が増えてきている。
- ・ つまり、各学校で教員が自らの力で取り組まなければならないことも増えているため、各教員におかれては再出発のような気持ちで取り組んでいただきたい。また、教員の負担増が想定されるため、教育委員会としても教員研修などに引き続き取り組んでいきたい。
- ・ 先ほど市長から、新たな「大綱」を定めていく旨のご発言があったが、大綱の内容とは別に、市長の教育に対する考えや思いを語っていただけるような機会をいただければありがたい。

(土屋委員)

- ・ 先ほど、授業で使用する端末や学習支援コンテンツの概要をご説明いただき、ワクワクするような気持ちでいる。
- ・ 一方で、ICT教育の先進地である台湾などでは、効果もある反面、教育のひずみが生じているなどの報道もなされている。
- ・ 本市でもICT教育を推進していくが、私たち教育委員は、そのようなことに気を配りながら進めていきたい。
- ・ 本市において、すべての中学校において、給食がいよいよ実現する。しかしながら、中学校給食の開始をもって一安心するのではなく、次のステップとして、給食の時間が持つ効果、例えば、問題を抱える子どもの心を癒すことができる点や、くつろげる時間を提供できる点などに着目しながら、食育にも引き続き取り組んでいただきたい。
- ・ また、GIGAスクールの「A」を「A r t」と捉えて、子どもを芸術や文化に触れさせ、考える力を伸ばすことも重要であると考えている。子どもの考える力は今後大切になってくるため、ICTの活用を通じて考える機会を設けるなど、その力を養っていききたいと考えている。

(坂元委員)

- ・ ビジョンで掲げた基本理念や目指すべき人間像などは、当たり前のことでありながら、とても素晴らしいことだと感じている。この目標等が変わらずにあるということが大事である。
- ・ 教育委員会としてビジョンに基づく施策に取り組む上では、結果が必要なことは理解しているが、子どもたちが毎年入れ替わっていく中、様々な取組の効果が見えてくるのに非常に時間がかかり、評価が難しいと感じている。
- ・ 先ほど、学習支援コンテンツの概要説明もいただいたところであるが、ICT教育への期待も高い。
- ・ ICTの活用など新しいことにチャレンジしながら、日常的な学習でこつこつと知識を蓄えて

いくという従来の方法も組み合わせた教育を実践していきたい。

- ・加えて、子どもの教育環境だけでなく、教員の負担軽減も含めた環境整備にも取り組んでいきたい。
- ・近年、就学前教育における家庭や学校の役割が変化してきている中、来年度から、本市でも公立幼稚園において3歳児の受入れが開始され、就学前教育の充実が期待される。就学前教育は重要であり、教育全体の中の1つの部門ではあるが、小学校へ入学する前の単なる訓練とならないよう留意しながら、取り組むことが必要と考えている。
- ・ハード面については、学校給食センターの整備や各学校における校舎の耐震化など、長年の課題が解消したところではあるが、トイレの改修など、引き続き、計画的に進めていきたい。

(岡田市長)

- ・個々の課題については教育委員会と一緒にしっかりと取り組んでいきたい。
- ・先ほど、委員からのご意見もあったが、本市の子ども一人一人が社会に出て、長い人生の中で幸せだと感じられるよう、教育施策を進めていく必要があると考えている。
- ・以前は、経済的な豊かさや社会的地位などが幸せを構成する大きな要素であると答える人が多かったように思うが、現在では、例えば奉仕活動や、人とのつながりを持つことができたとき、あるいは社会の中での存在意義を感じる事ができたときなど、幸せを構成する要素は変わりつつあり、自己肯定感を高めるものが占める割合が大きくなってきていると感じる。
- ・ICTの普及に伴う学習コンテンツの充実などにより、学習の効率性が昔に比べて上がっており、短期間で学力の向上を図る環境が整いつつある一方、人との距離が遠くなってしまいうような場面も出てくると思う。
- ・そのため、協同的探究学習などもうまく活用しながら、他者との関わりを持ちつつ、心温まるような体験を、教育を通じて感じていただくとともに、将来、人とのつながりから幸せを得たり、主体的に他者に関わっていかうとする人の育成に努めていただきたい。

○ 閉 会 午前11時30分